



会 議： 国際海事機関（IMO）第9回貨物運送小委員会（CCC 9）

開催場所： 国際海事機関（IMO：英国ロンドン）及びオンラインのハイブリッド

会議期間： 2023年9月20日～29日

海技研からの出席者：

松尾 宏平： 構造・産業システム系産業システム研究
グループ長

新田 好古： 環境・動力系環境影響評価研究グループ
主任研究員

近内亜紀子： 海洋リスク評価系システム安全技術研究
グループ主任研究員

工藤 潤一： 海洋リスク評価系リスク解析研究グルー
プ主任研究員



IMO から参加した新田と工藤

概要：貨物運送（CCC）小委員会は、

- 議題3（IGFコード）、議題4（IGCコード）、議題8（船上の閉鎖された区画への立ち入りの安全確保に関する決議の見直し）及び議題6（IMDGコード及び補遺の改正）について、通信グループ（Correspondence Group：CG）を設置して検討することに合意した。

主な貢献

松尾は、国際海上固体ばら積み貨物規則（IMSBCコード）及び補遺の改正（議題5）の審議を担当した。会議に先立って、この議題における各国提案文書の概要を日本語でまとめるとともに、対処の草案について検討し、対策資料の作成に貢献した。会議においては、議題5の審議に参画し、審議に貢献した。

新田は、国際ガス燃料船安全規則（IGFコード）の改正及び代替燃料と関連する技術に関する指針の作成（議題3）の審議を担当した。会議に先立って、この議題における各国提案文書の概要を日本語でまとめるとともに、対応する国内委員会の主査を務め、対策資料の作成に貢献した。会議においては、代替燃料に係る船舶の安全に関する技術要件の作業部会（WG1：議題3）に参画し、審議に貢献した。

近内は、国際海上危険物規程（IMDGコード）及び補遺の改正（議題6）について、特に放射性物質輸送に関する提案文書の対策資料の作成に貢献した。会議においては、IMDGコード改正に係る起草部会（DG1：議題6）に参画し、審議に貢献した。

工藤は、液化ガスのばら積み運送のための船舶の構造及び設備に関する国際規則（IGCコード）の見直し（議題4）及び液化水素運搬船の暫定勧告の見直し（議題7）の審議を担当した。会議に先立って、各国提案文書を検討し対策資料の策定に貢献した。また、IGCコード改正に関しては我が国提案文書（2本）の草案を作成し、液化水素運搬船の暫定勧告見直しに関しては、非公式通信グループのフォーカルポイントを務め、審議結果をまとめた提案文書を作成した。会議におい



では、IGF コード及び IGC コードの改正に係る作業部会（WG 2：議題 3、4、10¹）並びに液化水素運搬船の暫定勧告見直しに係る起草部会（DG 2：議題 7）に参画し、審議に貢献した。

主な審議結果

当所職員が担当した議題の主な審議結果は以下の通りである。他の事項及び審議結果の詳細については、他機関の報告を参照願いたい。

1 IGF コードの改正及び代替燃料と関連する技術に関する指針の作成（議題 3 関係）

今次会合では、主に水素燃料を使用する船舶のための暫定指針案及びアンモニア燃料を使用する船舶のための暫定指針案の審議が行われた。水素燃料を使用する船舶のための暫定指針案の審議においては、日本から提案した燃料タンクの配置を IGF コードと同様にする要件及び水素に対して適当でない材料の記載を削除する提案が審議され、これらの提案に合意した。また、当該暫定指針案を CG において引き続き検討することに合意した。アンモニア燃料を使用する船舶のための暫定指針案の審議では、CG において日本とノルウェーがそれぞれ暫定指針案を提案し、両提案に基に審議が行われた。アンモニアの毒性に対応するための要件の基本的なコンセプトに合意し、CG において詳細な要件を引き続き検討することに合意した。

また、これらの暫定指針に関する議論をさらに加速させ、当該指針の最終化を図るべく、次回会合に先立ち、第 1 回代替燃料に関する中間会合（ISWG-AF1。2024 年 9 月 9 日から 13 日）の開催を海上安全委員会に要請することにも合意した。

2 IGC コードの見直し（議題 4 関係）

2028 年の発効を目指したコードの改正案の審議が行われた。カーゴホールドなどの人の立ち入らない区画の換気の要件などが審議され、小委員会の開催期間中に合意に至らなかった内容は、CG で引き続き審議することに合意した。

3 IMSBC コード及び補遺の改正（議題 5 関係）

小委員会は、鉄鉱石ペレットの個別スケジュールの改正、船倉における殺虫剤の安全使用勧告（MSC.1/Circ.1264）の改正、三箇国合意に関する情報共有のためのサーキュラー、亜鉛スラグ（粗いもの）の新規個別スケジュール、鉄鉱石ブリケットの新規個別スケジュールの提案に基本的に合意した。2024 年前半に開催される第 40 回編集・技術グループ（E&T 40）にて、次回改正（08-25）への取り入れのための改正案等について審議される。

4 IMDG コード及び補遺の改正（議題 6 関係）（放射性物質輸送関連）

放射性物質輸送における船上の臨界安全指数（CSI）の変更提案（CCC 9/6/3）については、新たな定義がもたらす混乱と制限値緩和による臨界安全性への懸念が示された。小委員会は、提案者である World Nuclear Transport Institute に対し、CCC 9 で示された見解を考慮した上で更なる情報を CCC 10 に提出するよう求め、さらに IAEA 事務局に対し、IAEA 輸送安全基準委員会（TRANSSC）に本件に関する審議と検討結果を報告するよう求めた。これにより、本結果は本年 11 月に開催が予定されている TRANSSC 47 に報告され、必要な議論が行われる予定である。

¹ 議題 10：統一解釈



5 液化水素運搬船暫定勧告の見直し（議題7関係）

工藤がフォーカルポイントを務めた非公式通信グループの検討結果をもとに起草部会にて審議が行われ、暫定勧告の見直し案に合意した。この新しい暫定勧告は、MSC 108 で採択される予定である。

6 次回会合

次回の CCC 小委員会（CCC 10）は、2024年9月16日から20日まで開催される予定である。

以上